

# 第11回日本食海外普及功労者表彰受賞者講演内容

## 八木秀峰ボン

ただ今ご紹介にあずかりました、八木秀峰ボンです。このたびは、このような名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。また農林水産省。そしてJROの皆さまはじめ、関係者の方々には心より感謝いたします。

本日は、今までの私の活動についてお話をさせていただきたいと思います。私は、茨城県神栖市波崎町に生まれ、日本で大学進学を目指しておりましたが、受験当日に親友の牛乳配達を手伝っていたため、試験の時間に間に合わず、受験することができませんでした。大学進学を閉ざされた気持ちを一転し、1968年、渡米を決意し、所持金わずか500ドル、船で太平洋を渡り、サンフランシスコからグレイハウンドバスでアメリカ大陸を横断し、フィラデルフィアで生活をスタート。その後、ヨーロッパからインドまでシルクロード横断の放浪の旅に出た私は、実力を試すのであればニューヨークへと、27歳で再びアメリカへ戻りました。そして、ニューヨークのイーストビレッジという下町にたどり着きました。当時のイーストビレッジは閑散として荒れ果てていましたが、移民の地区であったこともあり、まさにここは、自分の将来を試したいと思い、レストランビジネスの夢を持ちはじめました。まずは青果卸、「YAO-Q」を親友と始めました。八百屋をやることでレストランビジネスの知識や地域との関わりを深めることができました。イーストビレッジにあるセント・マークス教会には、黒船来航、ペリー提督のお墓があり、私がイーストビレッジを選んだことは、さらに日本の、アメリカのつながりに貢献するのだという使命感を感じました。

その数年後、アメリカンダイナース、「レストラン103」をオープンして、ローカルな人たちだけでなく、まだ無名だったマドンナ、アンディー・ウォーホル、キース・ヘリングなど、新進のアーティストたちも足を運ぶ店となりました。しかしそのころ、日本レストランはミッドタウンに集中しておりました。そのため1984年にイーストビレッジに自分が食べたい日本食の店を開き、自分の生まれ育った町の名前を付け、「寿司、波崎」を開店しました。

この移民の多いイーストビレッジで日本食レストランの手応えを感じ、日本食文化をニューヨーカーに広めたいと強く感じ始めました。そして当時、日本レストランにはなかった専門店、そしてこだわりの店を作ることによって、もっと日本食の素晴らしさをアピールできると思い、しゃぶしゃぶ専門店、「しゃぶ辰」をオープンしました。今では日本からの和牛をニューヨーカーたちがしゃぶしゃぶして、エンジョイしております。

また日本酒との出会いは、31年前に日本の義理の母からもらった、そのころ幻の味といわれた日本酒、越乃寒梅でした。このときの1杯は、一生忘れられない味になりました。その当時アメリカにはおいしい日本酒がなかったので、自分が感銘を受けた日本酒の味を世界に広めたいという気持ちから、酒バー、「でしべる」をイーストビレッジにオープンしました。そしてミッドタウン、グランドセントラル近くに酒蔵をオープン。誰でも酒蔵に来れば日本のふるさとの酒が飲めるようにと、どこよりも数多くの酒を取りそろえ、品質管理にもこだわりを持っております。温度管理については専用の冷蔵庫に保存し、温度が一定に保たれることによって、蔵元からの味をそのままお客さまに楽しんでいただけるよう心掛けております。「でしべる」は100種類以上、酒蔵は今では250種類以上の日本酒をそろえております。その結果、蔵元の皆さまからは、酒蔵は日本酒の登竜門といわれるようになり、またニューヨークで日本酒を広めたことに関しては、名誉唎酒師をいただくことができました。

その後、私は麺が大好きなので年中食べても飽きない麺の店、蕎麦屋を立ち上げ、長野県安曇野市から取り寄せている蕎麦粉で、毎日手打ちの蕎麦をお客さまに提供しております。そして2000年にニューヨーク初、下町の味が楽しめるラーメン専門店、「来々軒」をオープンしました。

ニューヨーカーにもお茶の関心が深まり、抹茶をはじめとする日本のさまざまなお茶を楽しむ「茶庵」をオープン。当時は日本茶でお金を取るお店がなかったので、茶葉とお茶の入れ方にこだわりました。日本では米離れが叫ばれる中、ニューヨークで米文化を広めようと立ち上げたのが「ライスバーガー米吉」で、父の名前から

取りました。米こそ、日本を代表する食文化の一つであります。ライスバーガーとしてだけではなく、日本の米のおいしさ、健康食としての米の良さを分かってもらえればと思います。

今後の目標は、さらに日本食を広めるとともに、従来の日本食を食として知ってもらうだけではなく、日本食の調理法、食材、サービス、おもてなしを日本の食文化の一つとして普及していくことです。弊社のモットー、「日本に行かなくても日本を楽しめる空間、すなわち Enjoy Japan without Airfare」にも含まれております。そのためには地域とのつながり、そしてコミュニティとの関わりが不可欠と思い、さまざまな地域活動に携わってきました。そして自分たちの手でイーストビレッジを盛り上げようと、1990年に友達たちと「日本の祭り」を企画、運営しました。祭りは11年間続けて、ジャパントウンと言えばイーストビレッジというイメージを確立することができました。近い将来、日本の祭りをぜひ再開させ、さらにイーストビレッジのジャパントウンを確実なものとするために、アメリカ社会との共存共栄に力を注いでいきたい所存でございます。

最後になりましたが、いつもご来店していただいているお客さま、そして私をサポートしてくれている従業員、家族の共子、さくら、大八に感謝いたします。本日はご清聴、ありがとうございました。